

## 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

## 【特徴(強み)】

- ・ 県協議の場、圏域協議の場、保健所担当者会議等が連動し、有機的なつながりがある。
- ・ 県協議の場の下部組織である「人材育成チーム」による圏域支援体制の構築。
- ・ 圏域障害者地域生活支援センターと保健所の協働。

課題	課題に解決に向けた取組状況		取組の成果
地域相談支援(地域移行支援)支給決定件数が他県と比べて少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間の目標値(件数)を設定。</li> <li>・ それを踏まえて圏域でも目標値を設定し、関係者全体で件数をあげようという意識が高まった。</li> </ul>		年間目標値を達成できた(令和元年12月末時点)。
県や圏域での取り組みを市町村へも浸透させていくことが必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る研修会へ市町村職員にも多く参加してもらえるよう、研修内容を工夫。</li> </ul>		昨年度より多くの職員に参加してもらうことができた(9人→29人へ増加)。
圏域ごとの取組を共有する場を設けることが必要(好事例を他圏域にも広げる)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業担当者会議の中で、好事例(ピアサポート、地域診断等)を共有しその要因の分析を行った。</li> <li>・ 各圏域での汎化について検討した。</li> </ul>		好事例の取り組みが他圏域にも広がった。(地域診断に取り組む圏域 1圏域→4圏域)
課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①地域相談支援(地域移行支援)年間支給決定件数	15	15	現時点で年間目標件数を達成
②地域包括CS研修への市町村職員の参加人数	29	20	昨年度の3倍以上の職員に参加してもらうことができた
③担当者会議の開催	2	2	上半期、下半期、それぞれ1回開催

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。